

令和8（2026）年 年 頭 所 感

日本商品先物取引協会 会長 稲垣隆一

令和8年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

皆様お健やかに、抱負と希望に満ちた新春をお迎えのことと存じます。

本年の干支は丙午（ひのえうま）。『丙』は陽の気が強まり、火の勢いを象徴し、成長と発展を、『午』は進取の精神、前進、変化への適応を意味するとされます。古来『丙午』は、激しくも建設的なエネルギーが噴出する年とされ、挑戦と飛躍にふさわしい巡り合わせを感じます。この干支に込められた意味を胸に、果敢に新たな課題に挑み、会員の皆様とともに、未来に向けて力強く歩みを進める一年としてまいります。

昨年を振り返りますと、世界は地政学的リスクや経済的不確実性に直面いたしました。ウクライナ情勢や中東地域の緊張はエネルギー供給に影響を及ぼし、円安の進行は輸入コストを押し上げ、物価高の一因となり、企業や消費者に大きな負担をもたらしました。

このような環境下、国内では電力先物市場の取引高が着実に拡大し、脱炭素化を背景にしたエネルギー先物市場への期待が一層高まっております。

また、金は安全資産としての需要に加え、資産運用の対象としての関心の高まりを受け、歴史的な高値を記録しました。これに伴い、貴金属の店頭商品 CFD 取引も活発化しております。

一方、コメについては国内小売価格が高値圏で推移する中、米穀指数市場は必ずしも十分な裾野を広げるに至っておりません。

今後、激動する内外の経済状況に対応し、商品デリバティブ取引がリスクヘッジや価格形成の機能を一層発揮することにより、その存在感を高めていくことを強く期待しております。

さて、本協会は、委託者等の保護と公正、円滑な商品デリバティブ取引の確立を最重要課題として、自主規制の不断の改善に努めてまいりました。

昨年は「会員等の外務員の登録等に関する規則」をはじめとする7つの規則等を改正し、平成23年の商品先物取引法の改正や令和2年の総合取引所化の都度の見直しで複雑化してしまった登録外務員の資格要件や登録手続きを整理いたしました。現在、本年3月中に施行すべく各種の事務手続きの改修を行っておりますが、会員はもとより、新たに参入しよ

うとする業者にとっても分かりやすいものになったと存じます。

また、昨年は、証券のインターネット取引において、不正アクセス及びなりすましによる不正取引事案が発生いたしました。商品デリバティブ取引においても同種事案の発生が懸念される場所ですが、会員の多くが金融商品取引業者としても対策を求められていることから、各位には商品デリバティブ取引についてもリスク評価を行い、関係法令を遵守した公正性の確保及び顧客保護に取り組むよう要請いたしましたが、引き続き必要な対策を講じていただきますようご協力をお願いいたします。

本年における本協会の主要な取り組みとして、二点を掲げます。

第一に、外務員登録管理の基幹を担う「外務員登録管理システム」についてでございます。同システムは2011年の稼働以来、部分的な改修を重ねる中で複雑化し、加えて老朽化が顕著となっております。このため、本年より抜本的な改修に向けた検討を開始し、会員及び本協会における外務員の登録から抹消、登録事項の変更等に係る運用の効率化を図ります。

第二に、協会運営の一層の効率化を図るべくDX推進を加速させるとともに、職員の年齢構成の是正に向けた施策を講じ、持続可能な組織運営を確保いたします。

いずれも、長期にわたり協会の経営基盤が十分に安定していなかったことに起因する課題であり、これらの改善に全力を尽くし、健全かつ信頼性の高い商品デリバティブ取引の維持、発展を支える強固な基盤の確立に努めてまいり所存でございます。

最後になりますが、本協会事業に引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げまして、新年の挨拶とさせていただきます。

以上